

原因によって多くの種類があり、治療法が異なります

アザ・シミについて



お答え  
たなかクリニック  
田中伸吾 院長

■プロフィール 平成15年川崎医科大学卒業。平成15年川崎医科大学附属病院形成外科医師。平成17年公立三豊総合病院形成外科医師。平成24年福山市民病院形成外科科長。平成27年川崎医科大学附属病院皮膚科医師。平成29年医療法人広蔵会「たなかクリニック」開院。日本形成外科学会専門医、日本皮膚科学会、日本美容外科学会所属  
(メモ) ☎084(999)0155 たなかクリニック (駅家町上山守450-5) <http://prs-tanaka.com>

「たなかクリニック」の田中伸吾院長に、アザ・シミについて聞きしました。

Q アザとはどのようなものをいいますか。

A アザとは、皮膚の一部の色がその周りの皮膚の色と違って見えるものをいいます。色の違いにより赤アザ、青アザ、

茶アザ、黒アザなどと呼ばれます。打ち身などのアザと違い、放置していても消退しないものをここでは取り上げます。

「ます赤アザとは、血管の中の血液が透けて赤く見えるものをいいます。代表的な赤アザには、平らな単純性血管腫や、自然に小さくなるイチゴ状血管腫などがあります。次にメラニンが関係する黒・茶・青アザについて。皮膚は表面から表皮、真皮、皮下脂肪織の3層

からできていますが、表皮の最下層にはメラニン色素という黒い色素を生ずる、メラノサイトという細胞があります。このメラノサイトが作るメラニンが多いと、皮膚の色が黒くなります。表皮にメラニンが増加した状態が茶アザ。代表的なものでは、カフェオレ斑や扁平母斑があります。

浅い所にメラニンを作る細胞が増殖した腫瘍を色素性母斑、または母斑細胞母斑といい、俗にいうホクロで、黒く見えるため黒アザといえます。まれに真皮にメラノサイトが存在すると、メラノサイトが作るメラニンのため、皮膚は青く見え

ます。これが青アザです。代表的なものには蒙古斑や太田母斑などがあります。メラニンが皮膚の深い部位に存在すれば、皮膚は青く見え、浅いところに存在すると茶色や黒く見えます。

Q シミについて教えてください。

A シミと呼ばれるものの多くは加齢性や紫外線暴露に伴うものです。その中でも高頻度で見られるのは老人性色素斑や肝斑。これらはメラニンの存在部位が表皮にあります。老人性色素斑は、境界が比較的明瞭な褐色の色素斑で中高年によく見られます。紫外線の暴露により生じ、顔の左右で差があります。肝斑は頬の両側を中心にできる色素斑で、だいたいが左右対称。中高年の女性に多く見られ、女性ホルモンと紫外線暴露が主な原因と考えられています。それが合併している例もあります。

Q 治療はどのようにしますか？

A 切除やレーザーを用いた方法、内服薬によるものなど、疾患によって異なります。アザ・シミの診断は専門医でなければ見分けるのが難しい場合があります。疾患により治療法が異なるので、近くの医院を受診することを勧めます。